語学教育研究論叢第22号

性質を表す“会”について
—“要”句との比較から—

小栗山　恵

“*Hui* (会)” as an Expression of Property
—from the Comparison with “*Yao* (要)”—

OGURIYAMA Kei

内 容 提 要

能愿动词“会”在南方使用的频率较多的现象，已是众所周知的事实。但已往关与其语法性质的研究只限于透过与“能”的比较来分析。事实上，以同一个大陆和台湾的著作来比较两者的翻译本内容，不难发现在台湾译本当中出现的“会”句子与大陆译本中所相应的，其实“要”比“能”来得多。这可能是因为“要”和“会”都有倾向于出现在含有贬义的句子之共同点。

从上述的理由，本文以“要”和“会”相对应的例子，说明台湾国语的“会”其实具有普通话当中的“要”所拥有的表示「必然性」之功能。并试图说明在台湾国语多使用“会”的理由是在于其原本就具有表示「性质」的功能。

目　次

1．はじめに
2．“要”から見る台湾国語“会”
　2－1　貶義との結びつきについて

２－２　台湾国語“会”の表す「必然性」
２－３　“要”の表す「必然性」
３．性質を表す“会”
３－１　従来の「性質」に関する記述
３－２　台湾国語“会”の表す「性質」
４．まとめ

１．はじめに

助動詞“会”の使用頻度に注目して地域における差異を見てみると、南方では北方より多く使用されることが観察できる。それに関連する記述として以下のようなものがある。

１）《現代漢語八百詞》(1980、1999)

「表示可能，可以用‘能’也可以用‘会’。

下这么大雨，他能（会）来吗？

早晨有雾，今天大概能（会）放晴了。

这类句子，北方口语多用‘能’，别的方言多用‘会’。」

２）讃井（1996)

「“能”は北方口語で好んで用いられ、“会”は南方口語でよく使われる。

我看他不能（会）来了。」

このように南方において“会”が多用されることは、すでに知られているところであり、台湾国語における“会”も例外ではない。例えば、同一作品についての台湾と大陸の訳者による翻訳の用例を比較すると、大陸では“能”と訳されるにもかかわらず、台湾では“会”と訳される用例を検出することができる。以下のような例である[*1]。(TW は台湾、ML は大陸の用例を表す)

(1) TW 况且蝉会飞，跟螳螂先生不一样，(《我是猫》下第七章 p. 8)

ML 而蝉鸟又是能飞的东西，和螳螂兄不一样，(《我是猫》第七章 p. 223)

(2) TW 难得的机会，会使所有的动物做不喜欢的事。(《我是猫》上第二章 p. 39)

ML 难得的机会能使一切动物敢于做本来不乐意做的事情。

(《我是猫》第二章 p. 29)

小稿が調査の対象とした資料において[*2]、台湾国語のみに“会”が用いられた例は572例あり、そのうち(1)(2)のように普通話と台湾国語との間で“能”と“会”との対応が見られる例は27例存在する。そこで、その用例数をまとめると以下〈表１〉のとおりである。対応のパターンが複数あるため、そのうちの五つを①～⑤のように示した。

〈表１〉

	①	②	③	④	⑤
TW	“会”	×	“会”	“会”	“会”
ML	“会”	“会”	×	“能”	“要”
用例数	214	200	572	27	91

全用例数 (①＋②＋③)：986

※① TW、ML ともに“会”が用いられている例。② TW では“会”が用いられず、ML では用いられている例。③ TW では“会”が用いられ、ML では用いられていない例。④ TW では“会”が、ML では“能”が用いられている例。⑤ TW では“会”が、ML では“要”が用いられている例。

②と③の比較から、台湾国語が“会”を多用する傾向をこの表からも確認することができる。更に④の如く普通話では“能”を使用するのに対し、台湾国語では“会”である例が注目される。また⑤の如く普通話“要”が台湾国語で

“会”に相当する例として使用されるものも多い。

従来の“会”が南方において多用されることに関する記述は、(1)(2)のように“能”との比較を通して説明されるものに限られていた。

従って、台湾国語における“会”の頻繁な使用は“能”との比較以外の視点からも分析されなければならない。そこで“会”と“要”が対応する用例を見てみると、以下のような例を挙げることができる。

(3) TW 我想大约是在起稿，斟酌前文，所以才会发出这种古怪的声音。

(《我是猫》上第三章 p. 100)

ML 大概在草拟文稿之前，要发出怪声来做为序幕。

(《我是猫》第三章 p. 69)

(4) TW 听说他们会用罗织虚构的手法陷害良民；(《我是猫》下第十章 p. 299)

ML 据说他们甚至还要罗织虚构，陷害良民。(《我是猫》第十章 p. 335)

“能”に対応する例が27例しか存在しないにもかかわらず、“要”に対応する例は91例と多い。(〈表1〉④⑤)

従来“会”の機能は“能”との比較に基づいてのみ検討されがちであったが、上記の事実に基づけば、むしろ“能”よりも“要”との対応の視点から分析されなければならないことが分かる。

この問題については、複数の視点からの検討が可能であろう。その一つが、褒貶の視点からの説明である。助動詞“能”“会”“要”について褒貶と結び付く傾向を大まかに述べると、“能”はプラスイメージに結び付き[*3]、“会”“要”はマイナスイメージに結び付くということが知られている[*4]。これらの助動詞のこうした機能に基づけば、台湾国語の“会”が普通話の“要”と多く対応するのは、“要”が“会”と等しくマイナスに結び付くという共通点を持つからだと考えられる。

ところが、以下のような例が存在する。

(5) TW 也许有人会问：像主人这种人也梳头发吗？

(《我是猫》下第九章 p. 95)

ML 也许有人要问：难道像主人那样的人还要分梳什么头发吗？

(《我是猫》第九章 p. 293)

(6) TW 这是个连地震时都会叫「好好玩啊！」的小女孩，所以这种事也不足为怪。(《我是猫》下第十章 p. 140)

ML 她每次遇到地震的时候，都要叫嚷着好玩好玩的，区区的抹布当然不会使他大惊小怪的了。(《我是猫》第十章 p. 329)

これらの例では褒貶の判断が難しく、マイナスを帯びているとは言い難い。更に、プラスと結び付くと理解できる“会”さえも存在する。

(7) TW 所以想要叫他做什么时，只要反过来说，他就会照我们的意思做了。

(《我是猫》下第十章 p. 156)

ML 所以打算叫他怎么样的时候，只要故意反说，就准能合咱们自己的心意哩。(《我是猫》第十章 p. 342)

上の例は、プラスイメージの表現に用いられた“会”句である。台湾国語で頻繁に用いられる“会”には、このようにマイナスを帯びない表現も多い。

以上の事実に基づけば、褒貶のみの視点による分析では扱うことのできない“会”の存在することが知られる。そこで小稿はこうした用法を持つ“会”に注目し、台湾国語の“会”について従来とは異なる視点からその機能の分析を行う。この分析の過程において“要”との比較を通じて、“会”が如何なる機能を持つかという点について、新しい視点を提供することを試みる。尚、その際、同一作品の台湾と大陸の訳者による訳本を用い、個人差による誤差を軽減するため複数の訳本を採用する。

2．“要”から見る台湾国語“会”

2－1　貶義との結びつきについて

〈表1〉の②③から知ることができるように、台湾国語においては“会”が多用される。その原因の一つとして、“会”の「マイナスイーメージと結び付く性質」が作用していることが考えられる[*5]。“会”がマイナスと結び付く傾向は普通話に限られたことではなく、台湾国語や闽南語においても言えることである[*6]。とりわけ台湾国語の“会”は普通話“会”に比べ、より強くマイナスと結び付く特質を持つ。そのため、台湾国語においてはマイナスを帯びる表現に“会”が多く用いられることになる。台湾国語において“会”が多用される背景として、こうした理由の存在することが考えられる。

ところで、普通話の“要”にも、マイナスと結び付きがちのものが少なからず存在する。そこで、台湾国語の“会”との比較の視点から共にマイナスと結び付くと認められる用例を以下に示す。

(8) TW 一旦不合，就会跟丈夫起冲突，即使名为贤妻，却从早到晚和丈夫起冲突。(《我是猫》下第十一章 p. 272)

ML 合不来的时候，自然势必要和丈夫发生冲突。因此，凡是一个贤妻，必然是一位从早到晚跟丈夫冲突的女人。(《我是猫》第十一章 p. 428)

(9) TW 接下来迷亭照旧又卖弄口舌，直到黄昏，才说太晚了伯父会生气，便回去了。(《我是猫》下第九章 p. 132)

ML 到了掌灯时分，说是太晚恐怕他的伯父要发怒，才告辞回去了。

(《我是猫》第九章 p. 332)

(10) TW 起来啦！那样睡觉不好，嫂夫人会担心的。

(《我是猫》下第十一章 p. 242)

ML 快起来！老那么睡，别睡出毛病来了，太太要担心的！

(《我是猫》第十一章 p. 405)

(11) TW 真伤脑筋哪，不吃饭，身子会瘦弱的。(《我是猫》上第二章 p. 69)

ML 真急人啦，要是不吃饭，身体就要衰弱下去的。

(《我是猫》第二章 p. 48)

(12) TW 太率性而是会惨遭失败的。(《我是猫》下第十一章 p. 229)

ML 稍微疏忽就要惨招来失败的。(《我是猫》第十一章 p. 394)

このように“要”は“会”に対応して、“会”と同様にマイナスイメージと結び付く機能を持っていることを読み取ることができる。〈表1〉の⑤で示したように“会”と“要”が対応する91例のうち、57例が上例のようなマイナスイーメージを帯びる表現であった。

従来“会”は“能”との比較の視点からのみ談じられてきたが、上の例に認められるように、実は“要”に対応する例も少なくない。これは“要”がマイナスと結び付くという機能を持つからに他ならない。

2－2　台湾国語“会”の表す「必然性」

さて、“会”と“能”が対応する例も存在する。“能”にはしばしばプラスイメージと結び付きやすい傾向が存在することから、これらの用例のうち、いくつかはマイナスと結び付く例と判断できないことになる。先に挙げた(7)の他にも更に(13)(14)の例を指摘することができる。

(7) TW 所以想要叫他做什么时，只要反过来说，他就会照我们的意思做了。

(《我是猫》下第十章 p. 156)

ML 所以打算叫他怎么样的时候，只要故意反说，就准能合咱们自己的心意哩。(《我是猫》第十章 p. 342)

(13) TW「先培养那种心情后，再等待动物园内的老虎吼啸啊！」

「会吼吗？」

「没问题！会吼叫的。」(《我是猫》下第十章 p. 194)

ML「在那种心情之下稍立一会，动物园里面的老虎就突然之间啸起来了。」

「就能那样凑巧的啸起来吗？」

「决没有错，一定能啸的。」(《我是猫》第十章 p. 369)

(14) TW 在大学里讲述一些没有人懂的东西，会得好评；

(《我是猫》下第九章 p. 107)

ML 大学教授里面，满嘴说些不可理解的话的就能受到好评；

(《我是猫》第九章 p. 304)

(7)(13)は「期待どおりに事態が進む」という文脈で用いられており、(14)は「好評を博す」という意味であることから、これらの“会”や“能”はいずれもプラスイメージを帯びていると考えることができる。

“会”がプラスと結び付くことに関してはすでに相原（1997）が次のように指摘している。

3）相原（1997）

「一切都会／＊能慢慢地好起来。

你努力学习吧，他一定会／＊能喜欢你的。

プラスのことでも、『あなた任せのこと、どうしようもない自然の流れ』は“会”である。やはり“会”は、『普通にしていれば、あるいは放っておいても、自然にそうなる』という場合に使われるのである。」

上に引用した(7)(13)(14)は、いずれも相原の言う「自然にそうなる」ものに相当する。こうした“会”は、また“要”に対応する“会”の用例からも見いだすことができる。

(15) TW 他们把球高高地往空扔去，球不断上升，不久变落下来，一次又一

次，每次球都会落下。凯特问，为什么会落下来？

（《我是猫》上第二章 p. 74）

ML 每抛一次，球落下来一回。凯特问道：“为什么要落下来呢”

（《我是猫》第二章 p. 51）

(16) TW 一旦死掉就会浮起。（《我是猫》下第七章 p. 2）

ML 假使死亡，尸体一定要飘浮起到海面上来了。

（《我是猫》第七章 p. 217）

これらの例も(7)(13)(14)と同様に「自然にそうなる」を示している。即ち、これらの例において、「必然性」を表していると考えることができる。

更に、褒貶の判断が難しいものとして、以下の例を指摘することができる。

(17) TW 我就会如此回答：正因为我是为了劳动而生，所以也为劳动而要求休养。（《我是猫》上第五章 p. 245）

ML 那我就要这样回答他：正如你所指示的，我是为劳动而生存的，但为了要劳动，所以也要休息。（《我是猫》第五章 p. 170）

(18) TW 尤其观看那些皮肤黝黑的女学生专心一致地做体操时，我总会记起 agnodia 的传说。（《我是猫》上第六章 p. 291）

ML 尤其是在看到晒得黑黑的女学生专心做着体操的时候，每次我总要想起阿格之若底斯的逸事。（《我是猫》第六章 p. 205）

(19) TW 我会好好跟他说。（《我是猫》上第四章 p. 182）

ML 我一定要好好提醒他一下。（《我是猫》第四章 p. 122）

これらは褒貶が明確でない例であり、且つ自分自身の行為の趨勢について述べたものである。ここで用いられている“会”は、“会”の主体として一人称

が使われており、自分自身に関する動作の趨勢を「自然にそうなる」という「必然性」を表すものとして用いられている。そこで“会”の「必然性」については普通話及び台湾国語の両面からその差異を考察してみたい。

“会”と“要”はいずれも「必然性」を表す場合があるものの、両者で示される「必然性」は些か異なるものである。例えば、森（1996）は“会”の表す必然性としては「論理的推論に基づくもの」であるとし、一方“要”の表す「必然性」は「習慣や話者の経験などに依拠する」とする。これに基づけば、普通話における“会”の表す「必然性」は、“要”によって示される「必然性」と区別されなければならない。

この視点から改めて台湾国語の“会”の用法を観察すれば、“会”はいずれも森の述べる後者の機能において用いられることが知られる。即ち、普通話においては“要”の担っている「習慣などに依拠する必然性」を表す機能を、台湾国語においては“会”が担っているのである。従って、台湾国語の“会”は、この点において普通話“会”と異なるのであり、その結果、台湾国語“会”が普通話“要”に対応することになる。

以下に、台湾国語の“会”の持つ「必然性」の機能に焦点をあて、台湾国語“会”の機能の特性についてさらに検討する。

２－３　“要”の表す「必然性」

台湾国語の“会”が普通話において“要”と対応する場合は、両者の表す必然性に起因しているということはすでに述べたとおりである。つまり助動詞“要”の持つ複数の機能のうち、台湾国語において“会”によって表現される普通話の“要”は以下の二つに相当する[*7]。

①「(必然的な趨勢を表す) 必ず・・・する」

人总要死的。

不学习就要落后。

②「(習慣、傾向を表す) よく・・・する／いつも・・・する」

睡觉前他要做一会儿气功。

这里一到夏天要刮台风。

①②の“要”はいずれも「必然的に起こること、必然的なこと」を表している。そのため、すでに指摘されているように、①②の“要”句の疑問文は通常“要不要～”ではなく、“是不是要～”となり[*8]、純粋な疑問表現であるというより「そうする（そうなる）もの」を前提とした「確認」の表現であると言えるのである。

２－２でも触れたように、台湾国語“会”の機能の一部は、普通話は“要”によって担われる「習慣などに依拠する必然性」を表すものであり、その事実は正に上に挙げた(15)～(19)のいずれも疑問文が“是不是会～”となることからも裏付けられる。

そこで、このような“要”に対応する台湾国語の“会”の機能は、“要”の表す「必然性」の機能とどのように一致するのかを見るため、以下に原文と翻訳とを対照させながら用例を挙げる。（下線は引用者）

(20) TW 每次滚动磨擦棱角，也会受到伤害。（《我是猫》下第八章 p. 79）

ML 然而四四方方的就不但费尽了牛劲，而且每转一次就要磨擦棱角，痛得很哩。（《我是猫》第八章 p. 282）

「四角なものはころがるに骨が折れるばかりじゃない、転がるたびに角がすれて痛いものだ。」(p. 291)

(21) TW 因为再往下放，汤就会溢出来。（《我是猫》上第六章 p. 272）

ML 倘若再把筷子向下放一些儿，浆汁就一定要溢出来了。

（《我是猫》第六章 p. 190）

「少しでも卸せばツユが溢れるばかりである。」(p. 200)

(22) TW 说得清楚点，对方越有权势，受到压迫的一方就更会因为反感而加以

抗拒。(《我是猫》下第十一章 p. 269)

ML 说得厉害一些，而今是这样一种社会，对方越有权利，被压迫的人就越加感觉到不愉快，越发要起来反抗。(《我是猫》第十一章 p. 425)

「はげしく云えば先方に権力があればある程、のしかかられるものの方では不愉快を感じて反抗する世の中です。」(p. 455)

(23) TW 艺术还不是会跟夫妻关系遭到同样的下场？

(《我是猫》下第十一章 p. 274)

ML 就是艺术也要遭到和夫妇同样的命运。(《我是猫》第十一章 p. 429)

「芸術だって夫婦と同じ運命に帰着するのさ。」(P. 459)

(24) TW 仔细纵观文明的倾向，卜测遥远未来的趋势，就会明白结婚的不可行性。(《我是猫》下第十一章 p. 270)

ML 仔细观察目下文明的倾向，预卜远远的未来的趋势，结婚要明成为可能的事情。(《我是猫》第十一章 p. 426)

「つらつら目下文明の傾向を達観して、遠き将来の趨勢を卜すると結婚が不可能になる。」(P. 456)

以上を観察すれば、これらの原文には、ある共通性の存在することに気付く。上記の原文にはいずれも「～ものだ」「～する」「～になる」という言葉が用いられている。つまり、これらの用例はいずれも「～とはそういうものだ」という日本語に相当するものとして使用されている。日本語の「～ものだ」は単なる必然性を示すだけでなく、そのものの性質に基づく趨勢を表すという意味が示される。従って、これらの“会”は「～とはそういうものだ」というそのものの性質を示すという機能を表していると言える。

台湾国語の“会”は、以上のように普通話“要”によって担われる「必然性」を表す機能を持つが、その機能は単なる動作の趨勢を示すのではなく「そのものの性質」に大きく関わる表現を担っていると言える。

3．性質を表す“会”

3－1　従来の「性質」に関する記述

以上、台湾国語の“会”が「そのものの性質」を表すことについて述べたが、“会”が示す「性質」の機能は、実は台湾国語に限られることではなく、普通話の“会”においても観察されるものである。それに関連する記述として以下のようなものがある。（日訳は省く。下線は引用者。）

4）『中日辞典』講談社　P. 1133

「“能”“会”“可以”

人間や動物が生まれつきもっている潜在能力が，学習により開花してできる。少し練習したり，手ほどきをしてもらえば，基本的には誰でもできるようになることに使う。

孩子会走路了。

他会弹钢琴。

他会说汉语。

鸟会飞，鱼会游。」

5）相原（1997）

「他真会奉承人。

他很会吃。

他很会玩儿。

いずれの例も、ある人物のタイプを表すようなところがある。動作ができるというより、内在化して、その人のある性格を形成していると言えるだろう。」

上述の“会”の機能に関する説明には「潜在能力が，学習により開花してできる」と書かれている。所謂「潜在能力」とは、その性質が内在し、常に身についているということであるから、“会”が持つこの機能は「そのものの持つ

性質」と理解することができる。これはとりもなおさず“会”には「そのものの性質」を示す機能があるということを示している。

このことは次の事実によっても明らかにすることができる。例えば“我病好了，能下床了”という時は、“会”を使うことができないが、これはここで示される個別性の時間・空間の動作に“会”がふさわしくないためである[*9]。つまり、この句で示される内容が、そのものの性質を内在していることを表していないため、“会”の使用にふさわしくないのである。

3－2　台湾国語“会”の表す「性質」

「性質」を表す“会”の機能について、台湾国語の“会”を見ると、普通話において見られる機能の範囲よりも広いことが観察される。それは台湾国語の“会”の機能が「内在化した能力」だけでなく、「内在化した可能性」にまで及んでいるからである。以下にそれが示された例を挙げる。

(25)　TW 螳螂先生叶逃开了五六寸远。它既然晓得我的厉害，便失去了对抗的勇气，只是躲来躲去不知该逃向何方。不过我也会左追右赶地阻挡它的去路，最后它无可奈何了，一定挥动翅膀，企图来一次大跳跃。

(《我是猫》下第七章 p. 6)

「螳螂君はまだ五六寸しか逃げ延びておらん。もう我輩の力量を知ったから手向いをする勇気はない。只右往左往へ逃げ惑うのみである。然し吾輩も右往左往へ追かけるから、君は仕舞には苦しがって羽根を振るって一大活躍を試みる事がある。」(p. 227-228)

(26)　TW 如果只是想让我叫，早些说也不必三番两次费事了，我会一次完成，无须三番两次地费神。(《我是猫》下第七章 p. 36)

「鳴かせる為めなら、為めと早く云えば二返も三返も余計な手数はしなくても済むし、吾輩も一度で放免になる事を二度も三度も繰り返される必要はないのだ。」(p. 253)

これらは、一見それぞれ“左追右赶地阻挡”する能力や“一次完成”の能力があることを表しているようにもとれるが、二つめの例に“如果”があるとおり、これは「ある個別的な能力」を示すものと考えられる。個別的な時間や空間の動作に「能力」を表す際、“会”がふさわしくない認められるので、これらが「能力」を示すものと見なすことは適切ではない。

また一方では、これらがある状況下でそうなるという仮定表現の「可能性」を表しているようにも見える。しかし「２－２」で述べたとおり、台湾国語のこれらの“会”句は、普通話の“要”が持つ機能によって表される「必然性」に一致する内容を表しているため、普通話“会”の表す「可能性」と完全に一致するものとは言えない。と言うのは、(25)(26)ではいずれも“我”について「～するものだ」と述べられているため、「性質」を表しているものと考えられるからである。

そこで、台湾国語の“会”が持つ「能力」「可能性」を示す機能について検討してみると、以下の二点を指摘できる。即ち「必然性」を表す台湾国語の“会”は「性質」を表す機能に偏るものであり、台湾国語の“会”が持つこの「性質」を表す機能は、普通話とは異なり、「能力」を越えて、「可能性」を表す機能にまで及んでいるという点である。

４．まとめ

同一の日本文学作品についての台湾・大陸の翻訳を観察すると、大陸では“要”が使われていながら、台湾では“会”が使われていることが多いことに気付く。そこで大陸作品の“要”の用法を分析すると、それらはいずれも動作の趨勢を示すものではなく、そのものが潜在的に持つ「性質」を表すことが知られた。普通話における「能力」を表す“会”には「性質を示す機能」の存在することが知られていることから、台湾国語“会”の持つこうした機能は、“会”自体が持つ「性質を示す機能」の拡張されたものと考えられる。

台湾国語に接する機会があれば、台湾国語においては普通話よりも“会”が多用されることに容易に気付く。しかしながら、台湾国語の“会”が多用され

るのは、単に台湾国語が“会”の使用を好むからではなく、普通話における“会”以外の助動詞が持つ機能を、台湾国語においては“会”が担っているためである。

---

*1　例文の出典について、《我是猫》は『我が輩は猫である』の訳本を表す。台湾版は花田文化出版社、大陸版は人民文学出版社の訳本を用い、更に必要に応じて台湾・大陸それぞれ二種類の訳本を参考にした。

*2　註１で述べた《我是猫》の他に、『雪国』『伊豆の踊り子』の以下の訳本をも資料として用いた。《雪国》志文出版社（台湾）、《雪国》桂冠図書（大陸）、《伊豆的舞娘》星光出版社（台湾）、《伊豆的舞娘》北京燕山出版社（大陸）を用い、それぞれ必要に応じて異なる訳本を一冊ずつ加えて検討した。

*3　黄（1995）は以下のように述べて“能”の「プラスイメージと結び付く」性質について指摘している。（日訳は省く）

１）「这孩子将来一定能像他的父亲那样出色。

真没想到在这儿能见到你。

これらの例で述べられているのは、「状況が話し手の望むレベルにまで達する」ということである。実際、⑮のような予想外・反語の文脈をのぞき、望ましくないことがらについて「能」が用いられることはない。

＊不注意身体能感冒的。

＊这孩子的父亲很坏，这孩子将来一定能像他的父亲。

⑮没想到我能落到这种地步。

这么关键的时候怎么能感冒呢？」

この他に、許（1992）、讃井（1996）、山崎・鄭（2000）などにも関連の記載がある。

*4　“会”“要”の褒貶との関係については以下のような記述がある。（日訳は

省く）

2）相原（1991、1997）

マイナスイメージの事が起こりうると判断・推測される場合には一律に“会”が用いられると言うことができる。

・路线不对头，一切都会／＊能错。

・可怜坏人就会／＊能害了自己。

・开始工作时，难免会／＊能遇到一些困难。

3）山崎・鄭（2000）

“要”と“能”は「期待感」において、次のような差を見せる。④では、この二人は、仕事をしなくて済むのを喜んでおり（Aのセリフの“不用”に注意）⑤では、仕事ができないのを残念に思っている、という場面だと考えていただきたい。

④A：下雨，咱们就不用下地干活儿了。

B：今天下午｛＊要／能／会｝下雨。

⑤A：下雨，咱们就不能下地干活儿了。

B：真遗憾，今天下午｛要／＊能／＊会｝下雨。

4）鄭a（2002）

・只要吃一片，胃痛就能（会，＊要）缓解。

・只要喝一杯，我要（会，＊能）头晕。

・如果买＊＊股，肯定能（会，？要）赚。

・如果买＊＊股，肯定要（会，＊能）赔。

“能”后VP倾向于合意，“要”后VP倾向于非合意，“会”后VP没有倾向性。

*5　拙稿（2002）。

*6　台湾国語については、上記拙稿（2002）、闽南語については村上（1981）および樋口（1992）。

5）村上（1981）

「ē/oē会：［動］①・・・である。肉体にとって望ましくないこと、

もしくは不愉快な状態を表す」

・Lí× kia^{n} bē？　　（怖いですか。）

・Pak-tó’× iau bē？（腹すきましたか。）

6）樋口（1992）

「形容詞の前に助動詞ē（ōe）を添えて心理的感覚的に不愉快でマイナスの価値を持つことがらを表す」

・Lí ē kôa^{n} bōe?（あなた寒いですか。）

・Góa bōe kôa^{n}.（わたしは寒くありません。）

「心理的マイナスの価値を持つ形容詞はbōeで打ち消す」

・Chit-má bōe joàh.（いまは暑くない。）

・I bōe siá^{n} bái.　　（彼女はそんなに醜くはない。）

*7 ①②は『中日辞典』講談社。『中日辞典』小学館などにも同じような記載が見られる。

*8 同上。

*9 相原（1991）は以下のように述べて、“会”が個別性と相反することについて指摘している。

7）「『技能習得レベルの深浅』を問題にする場合や、それに関わる具体的・個別的な能力は“会”ではなく“能”を使うことになる」「“会”の表される習得状態は具体的な時間・空間の中であることがデキルと言うにはそぐわない」

〈参考文献〉

相原茂「能・会・可以」『中国語』内山書店、1991.1

相原茂『謎解き中国語文法』講談社、1997

小栗山恵「“会”と貶義との結びつきについて－台湾国語の視点から－」『東アジア地域研究』9、2002

黄麗華「中国語の可能表現「能」「可以」「会」」『日本語研究』15、東京都立大学国語学研究室、1995

讃井唯允「助動詞（能、会、可以）」『中国語』内山書店、1996.10
樋口靖『台湾語会話』東方書店、1992
村上嘉英『現代閩南語辞典』天理大学出版部、1981
森宏子「比較文に現れる“要”について」『中国語学』243、1996
山崎・鄭亨奎「要　会　能」『中国語類義語のニュアンス２』相原茂他編、東方書店、2000所収
《现代汉语八百词》商务印书馆、1980
《现代汉语八百词（增订本）》商务印书馆、1999
『中日辞典（第二版）』小学館、2003
『中日辞典（第二版）』講談社、2002
许和平〈试论“会”的语义与句法特征－兼论与“能”的异同〉《汉语研究》3，南开大学、1992
郑天刚 a〈用于推测时“会”“要”的差异〉《似同实异：汉语近义表达方式的认知语用分析》郭继懋・郑天刚主编、中国社会科学出版社、2002所收
郑天刚 b〈“会”与“能”的差异〉《似同实异：汉语近义表达方式的认知语用分析》郭继懋・郑天刚主编、中国社会科学出版社、2002所收

〈引用書目〉

夏目漱石（1961）『吾輩は猫である』新潮社
钟肇政导读（1995）《我是猫》花田文化
赵慧瑾译（1995）《我是猫》星光出版社
卡絜译（2001）《我是猫》小知堂文化
尤炳圻・胡雪译（1997）《我是猫》人民文学出版社
刘振瀛译（1994）《我是猫》上海出版社
于雷译（2001）《我是猫》译林出版社
川端康成（1987改版）『雪国』新潮社
萧羽文译（初版1988、再版1999）《雪国》志文出版社
叶溟若译（1994）《雪国》星光出版社

高慧勤译 / 导读（1998）《雪国》桂冠图书
路耿冰译（2000）《雪国》集思书城
川端康成（1985改版）『伊豆の踊子』新潮社
刘华亭译（1995）《伊豆的舞娘》星光出版社
石丽娟译（1990）《伊豆的舞娘》金枫出版
叶渭渠译（2001）〈伊豆的舞娘〉《雪国》北京燕山出版社
罗缡昱译（2002）《伊豆的舞娘》环华馆